

1月の基調判断 横ばい

製造業	↓	一部に弱い動き	住宅着工	↓	減少基調にある
観光	→	回復している	公共工事	→	高水準で推移している
小売店販売	→	持ち直している	雇用	→	横ばい
乗用車販売	→	持ち直している	企業倒産	→	増加基調にある

[前月の基調判断からの変化] ↑ 引き上げ → 据え置き ↓ 引き下げ

注) 1. 基調判断は足元の状況
2. 小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

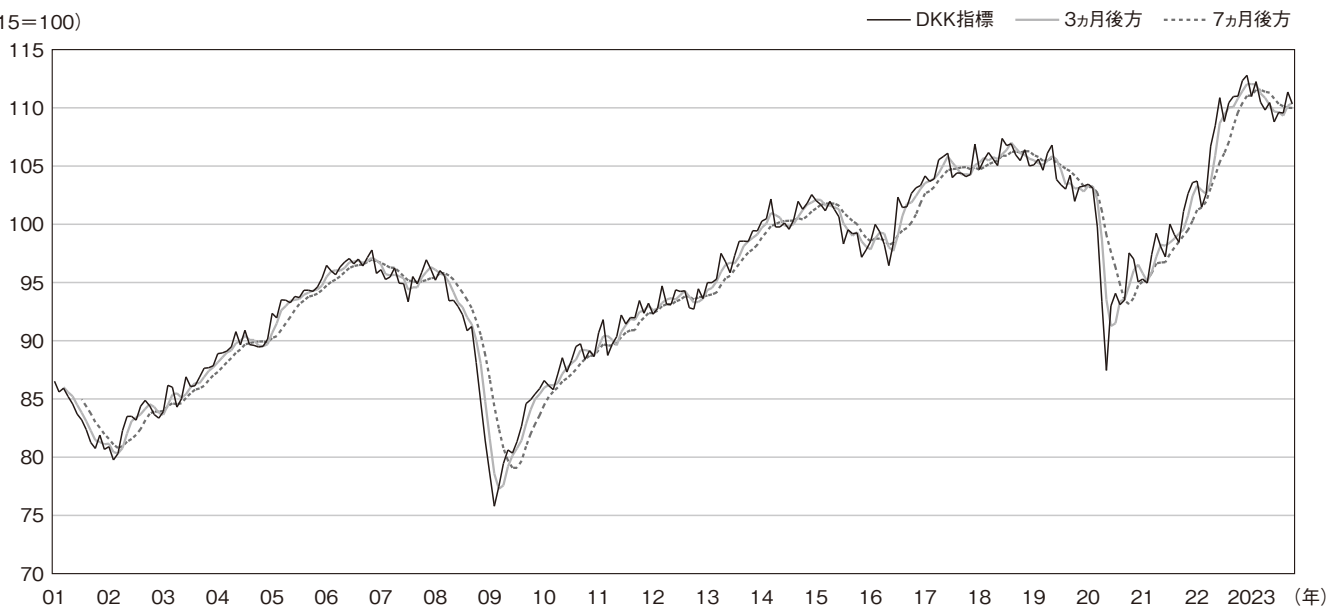
大分県の主要経済指標の動き

	2022.11	12	2023.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
鉱工業生産指数	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	○	○	-
小売店販売額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
乗用車・軽乗用車販売台数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新設住宅着工戸数	○	●	●	○	●	●	●	○	●	○	●	●	●
公共工事保証請負額	○	●	●	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○
ホテル宿泊客数	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新規求人数	○	○	○	○	○	●	○	●	●	○	●	●	●
企業倒産件数	●	●	●	○	●	△	○	○	●	●	●	○	●
プラス指標の割合	87.5	62.5	62.5	87.5	62.5	50.0	75.0	75.0	37.5	62.5	50.0	75.0	57.1

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化
2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「-」表示
3. 小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計
4. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分
5. ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

DKK 指標 (2023年10月)

(2015=100)



注) 3ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、7ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。
※本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標についてCIモデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK 指標 (CI) によると、10月の指数は前月比▲1.1の110.3と2ヵ月ぶりに低下しました。項目別では、「人件費比率」「所定外労働時間数」「新車販売台数」「鉱工業生産指数」がマイナスに寄与しました。